

2020年6月10日



社会福祉法人 福田会

福田会は1876年に「福田会育児院」として創立された日本最古の児童養護施設です。名称は「善い行いの種をまけば多くの幸福の実が得られる」という仏教の福田思想に由来しています。

現在は、児童養護施設「広尾フレンズ」と福祉型障害児入所施設「宮代学園」を運営。また、2012(平成24)年度には都心で充足率の低かった高齢者施設の都市型軽費老人ホーム「広尾グリーンハウス」と認知症高齢者グループホーム「グループホーム広尾」を開設して運営を開始。

さらに2014(平成26)年度から第2種社会福祉事業放課後等デイサービス「広尾てくてく」、2015(平成27)年度からは第2種社会福祉事業就労継続支援B型「広尾ジョイワーク」を開設し、運営しています。

一般社団法人 日本ポーランド青少年協会

日本ポーランド青少年協会は、日本とポーランドに興味を持つ両国の学生が主体となって活動しています。日本人のメンバーの中には、大学でポーランド語を勉強していたり、実際にポーランドに留学した経験のある人が多くいます。

現在、団体内の日本在住のポーランド人メンバーの中にも、帰国ができなくなったり仕事がなくなってしまうといった影響が出ており、福田会や駐日ポーランド共和国大使館と連携を取りながら、支援や帰国の飛行機に関する情報発信や在留期間延長のための手続きの通訳サポートなどを行っています。

19人に計190万円を支給

社会福祉法人福田会(ふくでんかい)は、第一次世界大戦終了後の1920年、シベリアで難民となっていたポーランド人孤児375名を受け入れたという歴史を持っています(次ページ参照)。

こうしたご縁から、新型コロナウイルスの影響が拡大している中、日本で困っているポーランドの学生やワーキングホリデーで来日した方々が、帰国までの間安心して生活し、良い思い出を持って帰れるよう支援したいと考えました。

○支援方法

日本ポーランド青少年協会のFacebookページにて支援希望者を募り、面接を行った後に口座振り込みまたは福田会に直接来てもらい支払いを行う。

対象:日本にいるポーランドの留学生またはワーキングホリデー・プロフェッショナルビザ等で来日された方

支援内容:生活費(10万円)の支給

※緊急事態宣言～帰国が可能になるまでの期間の費用を想定

○結果報告

支援者:19名(女性12名、男性7名)

【内訳】学生ビザ:1名、ワーキングホリデービザ:11名、プロフェッショナルビザ:6名、配偶者ビザ:1名

支援総額:190万円(各10万円)

上記の通り、19名のポーランドの若者への支援を行いました。支援者のほとんどは、帰国のための飛行機が欠航していつ帰ることができるのか分からないままホテル等に仮住まいをしていたり、店舗の閉店や臨時休業などにより仕事やアルバイトを失って金銭面で困窮している方々でした。

緊急事態宣言の期間が延長し、より多くのポーランド人を支援するためにクラウドファンディングの実施も考えましたが、5月18日にLOTポーランド航空による成田～ワルシャワ間の臨時便が飛ぶことになったことを受け、今まで支援した方々に向けての情報共有や航空券購入の手伝い等の対応に切り替えております。

支援金受給者の状況とメッセージ

福田会とポーランドの関係

今から100年前の1920年、第一次世界大戦後の混乱の中で、日本はシベリアにいたポーランドの子どもたちを受け入れました。そうした子どものうち、375名を収容したのが福田会(当時の福田会育児院)でした。

彼らは5回に分けて来日し、各々約3か月の滞在を経て徐々に健康を回復して、一人も欠けることなく横浜港からポーランドへと帰還しました。こうした歴史から、福田会は今もなおポーランドと親密な関係にあります。

ポーランドからは外交官や要人が頻繁に福田会を訪れ、昨年にはアガタ・コルンハウゼル＝ドゥダ大統領夫人が訪問されて施設利用者の皆さんと交流されました。また、2016年から毎年、ポーランドで開催される「児童養護施設の子どもたちのためのサッカーW杯」への招待を受け、施設の子どもたちが参加しています。



アガタ・コルンハウゼル＝ドゥダ大統領夫人訪問の際の福田会斜面での写真

昨年は日本とポーランドの国交樹立100年の記念の年であり、ポーランドで郵政省と美術大学によるシベリア孤児に関するコンテストが行われ、その中で選ばれた福田会の名前入りの切手とポストカードがポーランド国内にて発行されました。



福田会の名前が入った切手
(デザイン考案者は、ポーランドのヴロツワフ美術アカデミーの学生であるヴィクトリア・コスタースカさん)

M.Cさん、25歳男性、ワーキングホリデービザ

<状況>

ワーキングホリデービザでスキーインストラクターとして昨年12月に来日。3月中旬に仕事を終え、国内旅行の後ポーランドへ帰国しようと計画していたが、飛行機の欠航により足止めとなった。現在は旅行の道中で沖縄のホステルに滞在中。

<メッセージ>

お金を無事に受け取り、皆様には言葉では言い表すことができないほど感謝しております。飛行機が欠航してからの約1ヶ月半は本当に大変だったので非常にありがたいです。この状況を乗り切るための後押しをいただきましたので、数週間後に帰国できることを祈りながら過ごしたいと思います。

N.Wさん、26歳女性、ワーキングホリデービザ

<状況>

ワーキングホリデービザで来日し名古屋に在住。コロナウイルスの影響で飲食店でのアルバイトを解雇され、5月中旬に帰国を予定していたが飛行機が欠航となってしまった。現在は知り合いのホステルで清掃等の手伝いをしながら生活している。

<メッセージ>

福田会のご支援に感謝申し上げます。私は今、手伝いをする代わりにホステルに泊めていただいていることをとても幸運に感じており、またこのような困難な状況の中で、私たちのために動いてくださる方々がいると知ることができました。このような支援が受けられるとは思っていませんでしたが、皆様から立ち上がる勇気をいただきとても感謝しております。ありがとうございました。

K.Dさん、25歳女性、ワーキングホリデービザ

<状況>

ワーキングホリデービザで昨年秋に来日。ホテル内の清掃の仕事をしていましたが、コロナウイルスの影響でホテルが休業となり、5月以降の給料が受け取れなくなりました。10月末まで日本に滞在する予定で、次の仕事を探しているが、現時点では見つけられていない。

<メッセージ>

福田会の皆様の経済的かつ精神的な援助に非常に感謝しています。私は日本にもうしばらく滞在する予定なので、福田会のお力をお借りできるということがどれほど助けになるか、言葉では言い表せないほどです。本当に、本当にありがとうございました！

J.Mさん、34歳男性、プロフェッショナルビザ

<状況>

昨年7月にプロフェッショナルビザでスキューバダイビングの講師として来日。石垣島で勤務をしていたが、コロナウイルスの影響で3月頃から観光客が減り仕事がなくなりました。現在は職場が提供する宿にいますが、7月まで日本に滞在する予定のため、仕事を探している。

<メッセージ>

困難な状況での福田会の皆様の寛大さと私たちを助けようとするお気持ちに深く感謝申し上げます。皆様のポーランド人のためのそうした行動は決して忘れられるものではありません。異なる両国の間の兄弟愛のようなものを見ることができ、とても心強いです。本当にありがとうございました、福田会が1万年続きますように！

Z.P-Nさん、31歳女性、プロフェッショナルビザ

<状況>

プロフェッショナルビザで英語教師として3年間日本に滞在。3月から勤務先の学校が休みとなってしまう給料の一部しか払われない状態となった。現在は賃貸に居住しているが5月末で退去し、ポーランドへの飛行機が再開次第帰国を予定している。

<メッセージ>

2020年は、私にとって旅行と新しい経験を得る年にする予定でしたが、その代わりに、他者を喜んで助けようとする多くの素晴らしい方々が世界にいることに気づいた年になりました。このような困難な状況の中、経済的な支援をしてくださった福田会に心から感謝いたします。お礼として、福田会の活動やポーランドとの関わりについて、もっと多くの人に知ってもらえるようにしたいと思います。皆様にしていただいたことのおかげで、日本はいつまでも私の心に残るでしょう。